

ピーマンのガンマキンウワバ（新寄主）

令和6年8月に石狩地方のハウス栽培のピーマンで葉の食害が確認され、当該箇所には体長約3 cm程度のチョウ目の幼虫を確認した。当該個体を採取および室温で飼育したところ、ウワバ類の成虫が得られた。羽化した個体の前翅の銀紋がγ状であり、後翅の外縁部の黒褐色部と内側の明るい部分の境界が明瞭で翅脈が黒いなどの外部形態の特徴から、ガンマキンウワバ *Autographa gamma* (Linnaeus) と同定された。本種はてんさい、キャベツ、レタス、にんじんなどの作物や野菜、アルファルファ、アカクローバなどの牧草等、様々なものを食害する。道内においては、成虫は年3回発生し、ピークは6月、8月、9～10月であるとされている。

（中央農試・住友化学（株））



ガンマキンウワバ成虫（中央農試 佐々木 原図）